

「臓器を提供すること・・・！？」

私は58歳の主婦です。10年前にリウマチを発症するまで度々献血もし、骨髄バンクドナーにも登録していました。ある日“一次審査適合”という通知があり、次の審査まで正直悩みました。手術の不安などは少しもありませんでしたが、問題は家族でした。私の身体を心配して主人が反対したのです。結局二次審査まで行かなかったのですが、その時改めて移植の難しさを実感しました。

生体移植の場合、身内のためなら何でもしたいと思いますが、「100%安全なのだろうか？」「今は元気でも、何年先まで大丈夫と言えるのだろうか？」とも・・・。そんな臓器提供に対する不安が無くなるようなバックアップ体制が整っていないのが現状ではないでしょうか。

一方、脳死移植に関してですが、今の日本人は信仰心が薄いため、死後の世界に対する恐怖心が強いように思います。「臓器を摘出してしまってあの世で困らないだろうか？」、そんなことまで心配して臓器提供に同意できないのも家族だからでしょう。たとえ本人の提供の意思が固くても、短い時間内に決断しなければならないのは家族にとって酷な感じもします。もう少し経験者の談話とか、残された家族の正直な心情とかがわかれば、迷っている人にとって“良い道しるべ”になるのではないのでしょうか。

いずれにしても難しい問題ですが、せつかく臓器移植法も改正されたのですから、少しずつでも前に進まなければならないと思います。

58歳 主婦

